

終了報告書

留学プログラム名：大学の世界展開力強化事業 タイプ B：TiROP

留学期間：2014年8月18日～2014年12月1日

留学先：イギリス、インペリアル・カレッジ・ロンドン

自然史博物館やヴィクトリア&アルバート美術館などがある観光地としても人気な高級住宅街サウスケンジントンに位置する。元々はロンドン大学のカレッジの1つであったが、創立100周年にあたる2007年7月にロンドン大学から独立した。正式名称は Imperial College of Science, Technology and Medicine である。

<準備>

留学は学部3年の頃から意識はしていたが、実際に留学に行くというイメージはなかった。4年の間に留学体験を聞く機会が増え、自分もぜひ留学に行ってみようと思った。ずっと実家暮らしで大きな変化なく今まで過ごしてきたので、自分をそういう環境に一度おいてみたかった。他国の研究室を知ることができ、英語力の向上もできる、こんな絶好の機会はないと思った。就活が来年の3月から本格的に始まることや延期せずに卒業したいことを踏まえると修士1年秋のこの約3ヶ月間しかないと思い、卒論直後に実際に計画し始めた。

しかし、思っていたより留学の準備は大変というより困難であった。まず留学先の先生からすぐに留学受け入れ許可がでたものの、サマーホリデーに入ってから連絡が取りづらく1ヶ月返信がないときもあった。特別なプログラムでもない限り夏休みに留学することは避けた方がいい。後期に授業が受けられないため、留学前は授業や課題で忙しくなった。そのため語学勉強の準備はできなかった。住居については一度留学先の先生に相談してみたこともあったが、最終的には日本人向けの掲示板などから探し、下見をする約束し現地で決定することにした。できるだけ条件に合う家を探しておきたかったが、家賃がとても高いことや半年以上のテナント募集のシェアハウスが多く、かなり苦労した。ビザに関しては空港で取得できる Student visitor visa で十分であることが事前の下調べでわかっていたので必要書類だけ持参した。

<留学開始直後> 8月

結局、出発前日まで先生から返事をもらうことができず、住む場所も確定せず研究室も初回いつどこに行けばいいのかわからない状況で出国した。到着した日によく連絡を受け翌日研究室を訪ね、週一回のミーティングにも早速参加したが、夏休みのせいか生徒はすくなく、家探しも同時進行だったため、この先の生活が不安でしかなかった。最初の1週間は食欲もなかった。でも研究室のメンバーはみんな年上の優しい人達ばかりであった。女性が1人もいなく友達を作れるような状況ではなくやりづらかった。

この留学でもっとも苦労したことは大学への登録であった。この大学への手続きはオンラインで行うようで、どうやら最近始まったものであったようだ。先生に相談しながら手続きを進めようとしたが、事細かな情報まで必要で時間がかかった上、提出したあとでもなかなか登録完了の返事がもらえず、なんども事務室に足を運ぶと正しいビザがないと追い返されもう少し待てとかシステム上のトラブルでこちらでもどうにもできないと言われ、結局1ヶ月半たってようやく登録が完了した。学生として認められない以上実験室にも入れてもらえず実験を始められたのも留学期間が半分以上経ってからであった。オンラインの手続きならある程度留学前にも進められたでしょうし、他の大学へ行った学生や日本の他大からインペリアルに留学に来ていた学生はすぐに学生証をもらえていた。これを機にうちの大学とインペリアルとの間にもっと深いつながりができたらいいなと思った。

<留学中の研究・勉強>

上でも述べたように、前半では実験ができなかったため、最初の方は研究室の論文を読んだり、他の論文からデータを抽出しまとめる作業をしたり、先生の book づくりの手伝いとして参考文献からデータをとりまとめる作業をしたりした。ずっとデスクワークでありその間は他の学生との交流がないため、1日何回かあるみんなの休憩時間“コーヒータイト”にはなるべく行くようにし、そこで会話をしたりした。

実験がようやくはじまってからは supervisor の先輩と二人三脚で実験をすすめ、最後には自分だけで反応器がつかえるようになった。1ヶ月ほどしか実験期間がなく最後の方は反応器の調子がわるくたくさんデータを得られることはできなかったが、東工大でやっている実験とは全く異なる研究に触れ、いろいろ経験することが出来た。

<留学中の勉強以外の活動>

特に前半は大学外の時間がたくさんあり、住まいがロンドンの中心地から地下鉄で15分ほどのところであったので、毎週どこかには必ず足を運ぶようにした。今まで一人旅というものをしたことがなかったが、この留学中にはイギリス国外に何度か1人で旅行にも行った。また、現地のツアーを使うことで日本人以外の人と知り合いになったり、東工大から留学に行っている友達を訪ね、留学の大変さや面白さを分かち合ったりした。

また、スポーツは世界共通で、スポーツを通じて外国人とも仲良くなれると考え、得意のバドミントンを使って仲良くなろうと、日本からラケットとシューズを持参した。大学内でバドミントンできる環境はないか探したところ、隣の研究グループでバドミントンができるという女性と知り合うことができ、彼女ふくめ何回か大学の体育館でバドミントンをすることができた。また、大学外にもバドミントンサークルみたいなものはいくつもあり、掲示板で探して、そちらにも何度か足を運んだ。とても良い機会だった。

さらに、ロンドンにはミートアップというものがたくさんあり、日本に興味がある人が集まる日英のミートアップもいくつかある。そこは日本語を学びたいイギリス人と会うことができるためお互いにメリットが生じ、英語を話すいい機会を得ることが出来た。

<生活状況>

まず費用に関して。JASSO の奨学金を毎月いただけることができたため少し生活が楽だったが、イギリスの物価はかなり高いため節約に徹した。50万ほどはつかったと思う。友達と会ったりミートアップへ出かけたりする日以外はすべて自炊だった。学食も1食1000円弱だったので弁当を作って持って行った。家賃は、すべての部屋共用で月10万円だった。

次は住まいに関して。行く前に下見の予約を2件してから出かけたが、最初に下見した部屋があまりにもひどく、この先の生活が不安になった。結局、その翌日に下見に行ったもう一つの方の部屋に3ヶ月半お世話になった。そこは日本人の奥さんとイラン人の旦那さん夫婦とその子供3人のご家族がクラスー軒家の地下にある広めの1室を日本人女性へ提供している宿で、短期向けの物件であった。そもそも、ロンドンの家賃が高いためほとんどがシェアハウスで、契約上半年以上の契約を結んでくれるテナントを募集する大家さんが多く、3ヶ月だとかなり値段が高くなることもあって家探しには苦労した。だから結局短期向けのお家に落ち着いた。一度に最大4人の日本人女性の人と寝室も共用した。でも大家さんは愉快的な方で優しく、この期間に泊まったお客さんたちもみんな優しく、環境的には問題なかった。なにより、みなそれぞれ違う経験をして、違う理由でロンドンに訪れているため、そういった話を共有できることはとてもおもしろかった。長めの滞在になった人たちとは今でも連絡をとるくらい仲良くなった。日本人女性向けの数々の物件の中には怪しい物件もあると噂で聞くこともあったので、このような素敵なおところに住むことができて結果的には良かった。

<コミュニケーション>

自分はTOEIC 790点でリスニングにはまあまあ自信があったが、コミュニケーションにはかなり苦労した。旅行に行くのと学校に入るとでは全然使う英語が違う。口語的な英語が分からないのもあるかもしれないが、まずスピードが速すぎて会話を拾うことが困難であった。また、日本で英語を学ぶとアメリカ発音にふれることが多いと思うので、ブリティッシュの発音はかなり聞き取りづらい。スコティッシュなど地域でも日本の方言のように発音が異なる。さらに多国籍なのでイタリア人やスペイン人やブラジル人や中国人など、みんなそれぞれ自分の英語の発音を持っているので、とくにスペイン人の英語を聞き取ることはかなり困難であった。結局最後まで完璧に拾うことはできなかったが、まずはその速さになれるまでに時間がかかった。1対1の会話なら聞き取りやすいがそれでも最初の方は相槌を打つので精いっぱいだった。留学期間の最後の方では、自分から意見を言ったりする余裕がやっとでてきた。

<困ったこと>

最初の頃、研究室に同年代の人が少なく女性がいなくてどうやって友達を作ればいいのかかわからず苦労した。友達を作ればより英語が早く身につくと思ったので友達ができないことに最初焦りを感じた。ロンドンに慣れた頃からミートアップなどに積極的に行くようにし、友達をもし作れなくてもそこで英語を話す機会を得ていた。結果的には、みんな年上でも研究室のメンバーとも仲良くなることが出来た。

<自分自身の成長を感じたエピソード>

人見知りで初対面がいままでとても苦手で、今でもそれを完全に克服できたとは言えないが、1人でロンドンに飛び込み自ら行動しないとにも始まらない環境を作ることで、積極性や度胸などが留学前の自分より付いたのではないかなと思う。研究の成果をあげることよりも、日本での自分のこの環境では経験できないことを味わったり、英語が少しでも上手くなったり、なにかしら成長することが自分の目標であったので、それは達成することができたのではないかなと思う。

一番ではないが、成長を実感できた小さなエピソード。ロンドンではというより海外ではおはよう！の挨拶だけではなく、調子はどう？という会話を毎日でもかならず自然とつける。今までは相手にHow are you?と聞かれるとI'm fine.としか毎回答えることができなかった。日本にはない当たり前のその会話に私はいつも焦り、無難な答えしか返せなかった。しかし、なれると、I'm fine.以外にも自分の今の気持ちを表現する余裕ができ、さらにはAnd you?とその流れに乗ることができ会話が続いた。この会話をはじめて初対面の店員さんとできた時に一番実感した。

<留学を考えている後輩たちへアドバイス>

少しでも留学に迷っているのなら早めに決断し、短期間でも留学してみるといいと思います。長期で留学できればさらに良い。私は行ってみて本当に長期にすればよかったな、と思ったので。アドバイスとしては、早めにしつこく教授と連絡をとること。送ったメールが大量の事務メールに埋もれることも多いので頻繁に連絡をとることです。

それから、行く時期でその土地の雰囲気などもだいぶ異なるので、短期の場合、どの季節で行くかちゃんと考えてから選ぶべきだと思います。夏から冬への移り変わりを味わえたことはよかったですが、夏休みを挟んで行ったことは少し後悔しました。イギリスにする場合は、大学への登録でも、旅行での出入国でもビザが今厳しくなっているのでその準備は念入りにしておくべきです。そして、その地での時間を存分に楽しめなければ近場からでいいのでたくさんどこかへ出かけることをおすすめします。